

平成20年 市職員への年頭訓示

みなさん、新年明けましておめでとうございます。

ご家族揃って、健康で明るい新年を迎えられましたことと、心からお祝い申し上げます。

職員の皆さんにおかれましては、合併に向けました事務事業の調整から、引越し、更には新市としての業務の遂行と、合併前から昼夜を問わずひたむきに業務を遂行していただきましたお陰で、何とか木津川市としてのスタートを切ることができました。

この場をお借りいたしまして厚くお礼申し上げます。

さて、新生木津川市が誕生いたしましてから、早9ヶ月余りが経過いたしました。この間を振り返りますと、木津川市政の礎を築くための準備期間でありましたが、いよいよ平成20年は、本格的に木津川市としての市政を推し進めていく年となります。

新年を迎え、改めて身が引き締まる思いをいたしております。

さて、日本経済はサブプライム問題や原油高の影響を受け、短期的であるとは思いますが、経済成長は大きく鈍化いたしました。

一方、地方自治体を取り巻く環境は、平成20年度には、臨時財政対策債を含めた実質的な地方交付税総額が平成15年度以来の増額となる見込みですが、その内容は特に財政状況の厳しい地域への措置としての地方再生特別枠などによるものであり、平成16年度以降に行われた地方交付税の削減と三位一体改革による事務移譲による負担の増を考えれば、木津川市の財政状況は厳しいことになりました。

また、自治体間競争が激しくなっております今日におきまして、地方分権時代の受け皿として、また府南部の中核的な都市を目指している木津川市にとりまして、今まさに自治体の質、職員の力量が問われる時代となってまいりました。

さて、職場内で業務を遂行するため、また、市民の皆様と協働してまちづくりを進めていくため、更には政策的課題を解決していくために必要なものは、『信頼』であります。

職員同士、また、市民の皆様との「信頼」関係を構築するため、今年『本気』をテーマとして、職務を遂行していただきたいと考えています。

執行目標を達成するため、また、政策的課題を解決するため、更には、ミスのない事務処理を執行するためにも『本気』で業務を遂行していただきたい。

『本気』で取り組みますと、その気持ちは相手に、回りの人に伝わり、緊張感をもかもし出します。また、そのことが結果として『信頼』関係を構築することにつながります。

私たちは、事なかれ主義や前例踏襲といった慣行、更には年功的な処遇環境のもとで長年にわたって行政を進めてきたのではないのでしょうか。

当然ことではありますが、このような環境の中で、根づいた意識や行動を根底から払拭し、徹底した経営感覚・コスト意識を十分に持ち合わせながら、木津川市民全体の利益を考えて業務を遂行しなければ、21世紀に求められる真に自立した自治体にはなりません。

先ほども申しましたが、『本気』は、人と人との信頼関係をも構築いたします。市民の皆様に対する説明、上司に対する報告、連絡、相談、そして業務の遂行と、全てにおいて、『本気』で取り組んでいただきますようお願いいたします。

私も、職員の皆さんや市民の皆様との信頼関係を構築するため、本気で取り組んでまいりたいと決意を新たにしております。

次に、『市民サービスの原点はあいさつから』を合言葉に、あいさつ運動を全庁的に進めてまいりましょう。

庁舎内におきまして、来庁された市民の皆様に「おはようございます」「こんにちは」と挨拶をすることは、何も特別のことではございません。

明るく、しっかりとした挨拶をしていただきますようお願いいたします。

特に、管理職の皆さんは自覚と責任を持って、『本気』と『あいさつ』を率先して取り組んで頂きますようお願いいたします。

まだまだこれからも寒い日が続きますが、職員の皆さんも健康に十分ご留意いただき、共に頑張ってください。

最後になりましたが、皆さんにとっても良い年でありますことと、新生木津川市が大きく飛躍いたしますことを祈念いたしまして、簡単ではございますが、年頭の訓示といたします。